

## ナチス・ドイツによる強制収容と犠牲者数に関する研究

### ～ポーランド南部及び東部の現地調査を通じて（Ⅱ）～

青山貞一（東京都市大学環境情報学部）、池田こみち（環境総合研究所）

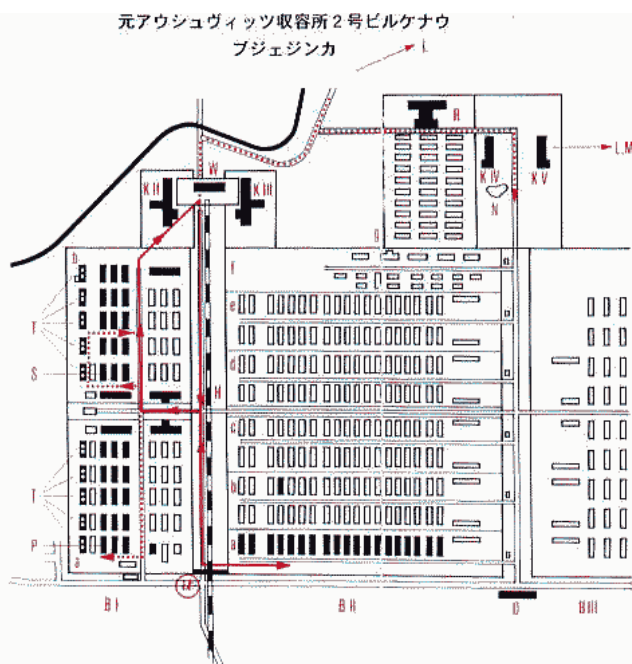
第2次世界大戦中、欧州ではナチス・ドイツによってポーランドを中心に、ドイツ、オーストリア、リトアニア、ラトビア、エストニア、イタリア、フランス、オランダ、ベルギー、旧ユーゴ、旧ソ連、ウクライナ、ベラルーシなどの国々に、いわゆる強制収容所が多数設置、運用され、ユダヤ人を中心に多くの人々が犠牲となった。本論では、ポーランドのアウシュビッツ、ビルケナウ、マイダネク、ソビボル、ベルゼック、トレブリンカなどガス室・焼却関連施設をもつ大規模な強制収容施設についての現地実態調査をとりまとめるとともに、関連各国における第3者による歴史考証や実態調査、さらに収容所、収容数、犠牲者数に関する文献・資料調査をもとに、さらに関連各国における第3者による歴史考証や実態調査、さらに収容所、収容数、犠牲者数に関する文献・資料調査をもとに、ポーランド及び欧州各国の主要収容所を現地視察、現地資料収集することにより犠牲者数の推計を試みた。

#### ■ ビルケナウ強制収容所の概要

アウシュビッツ強制収容所から無料バスにて約 15 分で広大なビルケナウ強制収容所に到着する。

ビルケナウ収容所は、アウシュビッツ強制収容所の収容能力を補うため、1941 年 10 月、ポーランド語でブジェジナカ、ドイツ語でビルケナウ村に「第2の強制収容所」として開設された。ビルケナウの総面積は 53 万坪、ヘクタールで約 175 ヘクタールに及ぶ巨大な施設で、たとえば言えば東京ドーム約 37 個分もある。バラックと呼ばれる収容施設は、300 棟以上から構成されている。おそらく世界の歴史上、有数規模の強制収容所であると言える。

以下にビルケナウ強制収容所の全体概要図及び凡例として主な施設の説明を示す。



ビルケナウ収容所の全体概要図

#### ●主な施設の解説

- it : 総合案内所、この近くにバスが到着する。
- B II a : 隔離所
- B II b : テレジンのユダヤ人家族用収容所
- B II c : ハンバリーのユダヤ人収容所
- B II d : 男性収容所
- B II e : ジブシー収容所
- B II f : 囚人用病院
- B II g : 殺害された人々から奪った物の倉庫 (通称カナダ)
- B III : 収容所増設地域 (通称メキシコ)
- H : 引き込み線 (積み下ろし場)
- K II ~ V : ガス室・人体焼却場の後
- L : 野外焼却場 (遺体の野積み場所)
- M : ソ連軍捕虜集団墓地
- N : 人間の灰処分場
- O : 司令部
- P : 死のブロック
- R : サウナ (常設展示場)
- S : 懲罰労働班
- T : 囚人用トイレ・洗面室
- W : ナチス政権下の犠牲者の国際慰霊碑

#### ●ビルケナウの施設規模

強制収容所の規模だけで言えば、2日後に訪問したルブリン近くにあるマイダネク強制収容所 (Majdanek Concentration Camp) は約 270 ヘクタールある。マイダネク収容所はアウシュビッツ系収容所以前に囚人への大規模殺戮が行われたと言う意味でも重要な収容所である。だが犠牲者の数で見ると、やはりビルケナウ収容所が世界最大規模であると推察できる。

ところでビルケナウの収容施設である 300 棟を越すバラックの建設には、主にソ連兵捕虜が従事したとされる。ピーク時の 1944 年には 9 万から 10 人が収容されたとき

れる。そのほとんどはユダヤ人である。この他に主だったものとしてロマ（ジプシー）・シンティが挙げられる。

アウシュビッツ系施設の象徴的存在として映画や書籍などでよく見られる「死の門」と強制収容所内まで延びる「鉄道引込み線」は1944年5月に完成している。



Teiichi Aoyama in Birkenau Poland

ビルケナウ強制収容所を象徴する「死の門」

撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10



Teiichi Aoyama at Auschwitz, Poland

ビルケナウ強制収容所を象徴する「死の門」

撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10

このほか、被収容者から略奪した品々を一時保管する倉庫や病院（人体実験の施設でもあったとされる）、防疫施設、防火用の貯水槽とされるプール、農家2棟を改造したガス室とされる施設、さらに4つのガス室とされる施設などがあった。

ビルケナウにおける死亡者数と人体焼却数で議論のもととなるガス室や焼却施設は、ナチス・ドイツが撤退時にドイツ軍の手によって破壊されている。収容施設は、家族向けの監房、労働者向けの監房、女性専用の監房などに分けられており、1943年以降に建てられた南側の収容施設（全体の3分の1程度）は、収容所のなかでも特に粗末なつくりであったとされる。ここには主に女性が収容された。

## ■ビルケナウの強制収容施設（バラック）

ビルケナウにおける最大収容数については、諸説があ

るが1944年8月時限での点呼では囚人数は男女あわせてピークで10万人に達していたという。ビルケナウ収容所は絶滅工場と呼ばれているが、「絶滅」の意味は、一旦この施設に入った囚人は生きて外に出られない、すなわち囚人を絶滅するという意味を意味している。ビルケナウ収容所のバラックの数は300棟以上あるが、いわゆるアウシュビッツ収容所（1）のバラックの数が約25棟であることから、バラック数だけを見れば10倍以上あることになる。

ただし、ビルケナウの場合、現在まで当時の姿で残っているのは、300棟中わずか45棟だけである。それらはレンガ造りのものと22棟の木造づくりのものである。

焼かれたり破壊されたりしたバラックは現在、煙突だけしか残されていない。そんなこともあり、敷地にはやたらと煙突が林立している（下の写真参照）。



強制収容所のバラック群。煙突が不気味に残っている

撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10

施設が立地しているブジェジニカ（ビルケナウ）村は、もともと湿地であり、バラックはそ上に基礎もなく建てられている。ほとんどのバラックには床がなく、多くは地面がドロである。大雨が降ると地面はドロでグチャグチャとなる。ビルケナウ収容所は、稼働時に複数の管区に区分されていたという。



ビルケナウ強制収容所の稼働時のバラック

撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10



### ■劣悪な木造バラック内部の視察

私たちは最初に以下の施設の典型的な収容施設であるバラックを英語のガイド付きで視察することにした。

下の写真は私たちが視察した木造バラックである。



内部を詳細視察したビルケナウのバラック

撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10

もともと 52 頭分の馬小屋であった。それを多少改造して使っていたという。木造バラックはほとんど窓もなく、内部は昼でも真っ暗でジメジメしており、到底居住できる環境にはないことが分かった。

衛生上の大きな問題として、ビルケナウの収容所にはまともな水がなく、衛生的な欠陥があった。ネズミの大量発生が囚人の生活環境をさらに悪化させていた。

視察したバラックには女性の囚人が収容されていたという。女性らは3段ベッドで腐った藁のうえに寝かされていた。



レンガバラックの3段ベッド (女性用)

撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10

一区画一段ごとに最大 8 人が寝かされ 3 段で最大 25 人近くが寝ていた。それが通路の両側に 7 - 8 行あるから、1 棟あたりの最大収容人数は、8 行×25 人× 2 列= 300 人となる。

ガイドによると 3 段になった囚人用のベッドは選別された囚人のうち体力がある人が一番上の段、弱い人が一番下の段 (上れないから) と話していた。階段もなく、よじ登らなければならなかった煉瓦や木の 3 段の枠はま

さに「選別」の象徴的なものだったと思う。



レンガバラックの3段ベッド (女性用)

撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10

ビルケナウ強制収容所には 300 棟以上のバラックがあった。したがって、概略的に最大収容人員を推計すると、300 棟×300 人=9 万人となり、先に示した最大収容データにはほぼ合致することになる。

下は女性用バラックのはずれにあったトイレ。



木造バラックにあった女性用トイレ

撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10

世界各国から集まった視察者は真っ暗なバラックの中で熱心にガイドの説明に聞き入っている。一切電気はない。



ガイドの説明に熱心に聞き入る視察者

撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10



下の写真はレンガづくりのバラックの全体構造を示す写真。レンガ造りとはいえ、まさにバラックであっておそまつなほったて小屋であることが分かる。



レンガづくりのバラックの構造を見る  
撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10

30分ほど、ガイドのもとバラック内部を視察したわけだが、ビルケナウのバラックは、あらかじめ聞いていたように、また各種資料で読んでいたように、アウシュビッツ収容所に比べても、相当劣悪な居住環境、衛生状態にあることが分かった。

木造バラックの一部は馬小屋を改造したとされているが、まさに囚人らは馬小屋並みの扱いを受けていたことになる。収容人員から見ると、さらに馬小屋以下の扱いをされていたことになる。

### ■ビルケナウ絶滅収容所の人体焼却施設

ところで、鉄道の「引き込み線」の一番奥に2棟の焼却炉、ガス室が「がれき」の形で残っている。

1944年に絶滅のためにフル稼働した新型の焼却炉、ガス室は、ドイツ軍が撤退する際に、SSらにより犯罪の痕跡（証拠）を消すため爆破された。

しかし、当時、死刑宣告された囚人たちが裸にされた地下の更衣室やガス室、5台の焼却炉とそこに通ずるレールは関係者の調査によりハッキリと確認されたという。

5つあった焼却炉とガス室のうち4つ目は、1944年にユダヤ人の特別労働班の反乱が起きたとき、完全に破壊されたが、第2と第3の焼却炉があった場所の間には、ナチス政権下で犠牲となった人たちの祈念碑がある。

その祈念碑は1967年に除幕式が行われている。右の写真は、その祈念碑である。



ビルケナウ収容所に残る焼却施設の残骸  
撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10



ナチス政権下で犠牲となった人たちの祈念碑の前にて  
撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10

### ●ビルケナウ絶滅収容所の人体焼却施設を調べる

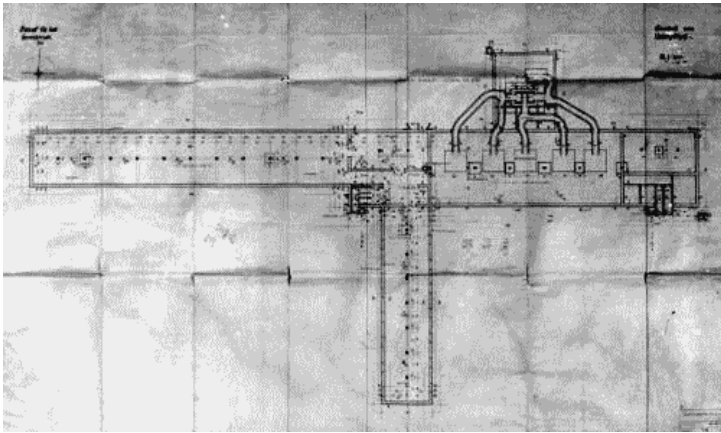
上述のようにビルケナウでは膨大な数の犠牲者がでたことは間違いがないところであるが、ビルケナウでガス室や人体焼却炉が実際に稼働した時間は、それほど多くない。

ポーランド政府などの歴史的史実によれば、ビルケナウ強制収容所で大型の新型ガス室建設計画が始まったのは1942年8月である。ビルケナウ収容所のガス室は、アウシュビッツ収容所のガス室の最低でも4倍の広さがあり、一度に最大2,000人を収容し、殺害したとアウシュビッツ博物館の展示模型の説明板に記載があった。

新型焼却炉は、1943年3月末に一部が稼働可能になったとされ、その後、1943年4月から1944年3月にビル



ケナウで本格的な殺害と焼却炉による人体の焼却が行われるようになる。以下に5つあったとされるビルケナウの新型施設のうち、II、IIIとIVの施設に係わる貴重な資料（証拠）を示す。下は現在のがれきの下に埋まっているアウシュビッツII-ビルケナウのガス室及び死体焼却施設IIの原設計図である。



ビルケナウのガス室及び死体焼却施設IIの原設計図  
 撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10

上の設計図を見ると、焼却炉は1棟につき5炉あることが分かる。下図で焼却炉の左側と上側に伸びる部屋が前置室、いわゆるガス室である。確かにアウシュビッツ収容所のガス室の最低でも4倍、最大6倍の広さがある。

下は現在のがれきのそばに建てられている案内板にあるアウシュビッツII-ビルケナウのガス室及び死体焼却施設IIの原設計図である。設計図が上下が逆さまとなっているが、上の設計図と同じものである。5つの焼却炉と広い2つの前置室（ガス室？）がある。5つの焼却炉は一本の集合煙突に連結している。



撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10

右上は上述の新型ガス室及び死体焼却施設IIとほぼ同型のアウシュビッツII-ビルケナウ強制収容所のガス室及び死体焼却施設IIIの写真である。1943年にSSが撮影

したものである。



ビルケナウ強制収容所のガス室及び死体焼却施設III。  
 1943年のSSの写真

撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10

さらに下は、ビルケナウ収容所の一番奥の現地案内板にあったガス室及び死体焼却施設IIとほぼ同型のアウシュビッツII-ビルケナウ強制収容所のガス室及び死体焼却施設IIIの写真と解説である。



撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10

次の写真は、ガス室及び死体焼却施設IIとほぼ同型のアウシュビッツII-ビルケナウ強制収容所のガス室及び死体焼却施設IIIの模型である。アイシュビッツ博物館に展示されていたものを青山が撮影したものである。向きは180度ひっくりかえっているが、上の写真と同型のガ

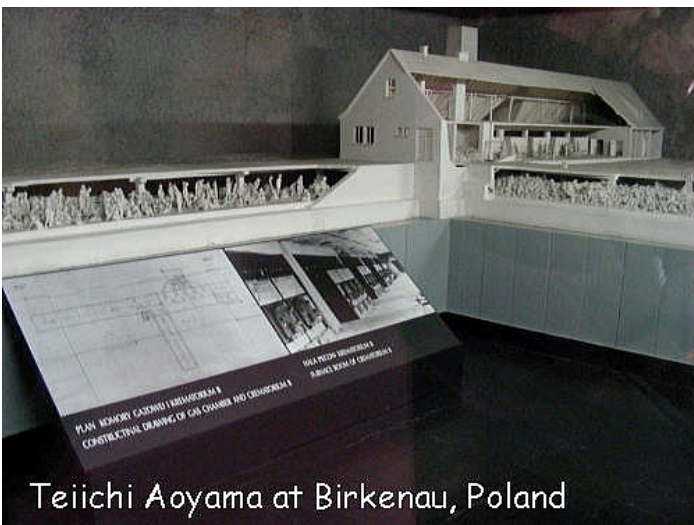
ス室及び死体焼却施設であることが分かる。



Teiichi Aoyama at Birkenau, Poland

ビルケナウ強制収容所のガス室及び死体焼却施設Ⅲの模型 撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10

下の写真にある模型からは、焼却炉がある棟（煙突がある棟）に対し、2方向に地下室の前置室としてのガス室が伸びており、そこに数百人規模の囚人が押し込められ殺害されたと案内板に書いてあった。人がいる広い部屋は地下室となっている。



Teiichi Aoyama at Birkenau, Poland

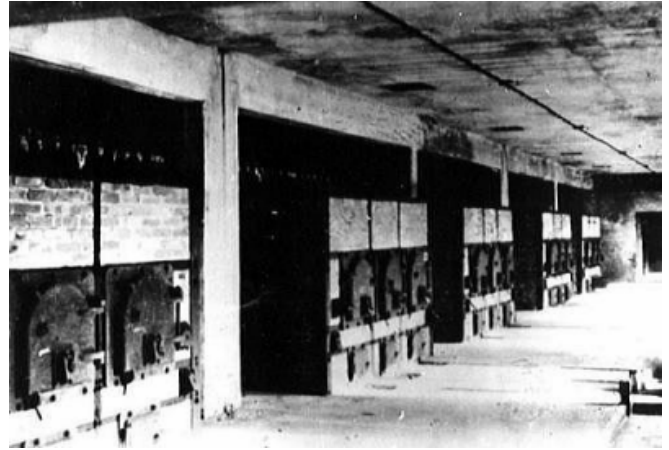
ビルケナウ強制収容所のガス室及び死体焼却施設Ⅲの模型 撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10

なお、右上はこの施設に設置された焼却炉の写真である。写真からは設計図通り、焼却炉は5系統 15 炉もあることが分かる。

仮に上記の写真にある焼却炉で、1 系統当たり 1 日 300 人を焼却するとすると、稼働した日数を 1933 年から 1944 年の 300 日とした場合、 $300 \text{ 日} \times 300 \text{ 人} / \text{日} / \text{焼却系統} \times 5 \text{ 系統焼却炉} = 45 \text{ 万人}$ となり、かなりの規模の焼却が可能となることが分かる。この推計は、焼却施設能力を最も過小評価した場合のものと言える。

周知のように実際にはビルケナウにはこの規模の施設（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）が3施設、さらに後述する他の形式の焼却施設がⅣ、Ⅴと2施設ある。したがって、全体として

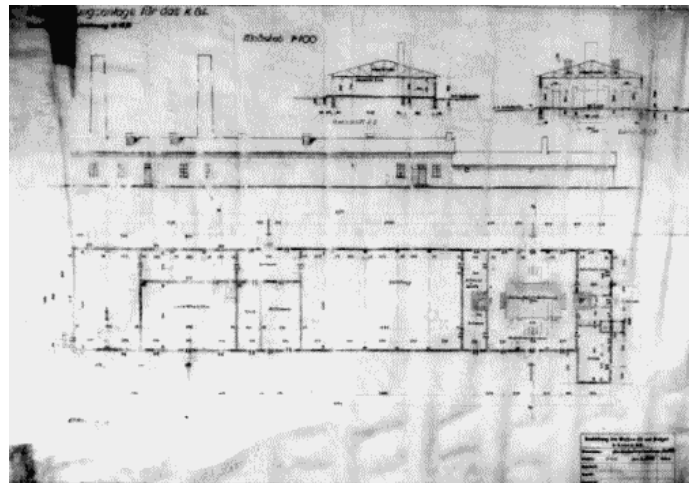
は期間中、100 万人をはるかに超える焼却能力をもっていたことが推察できる。



ビルケナウ強制収容所の死体焼却炉の写真 撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10

### ■ガス室及び死体焼却施設Ⅳ

下の写真は、現在はがれきの下に埋まっているアウシュビッツⅡ-ビルケナウのガス室及び死体焼却施設Ⅳの原設計図である。この施設的设计内容は、明らかに先に見たⅡ、Ⅲの施設と異なる。煙突も二本設置されている。



ビルケナウのガス室及び死体焼却施設Ⅳの原設計図 撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.10

次の写真は、現在はがれきの下に埋まっているが、稼働していたときに撮影したアウシュビッツⅡ-ビルケナウのガス室及び死体焼却施設Ⅳの写真である。1943年にSSが撮影したものである。まさに上の設計図通りの施設の構造と設計となっていることが確認できる。

焼却施設の近くには野外の遺体の野積み場所と人体の野焼き場所があった。現在、それらの具体的状況は知るよしが無い。写真は当時、ビルケナウなどの強制収容所で行われた死体の野積みである。何とも痛ましい光景である。





アウシュビッツ-ビルケナウ強制収容所のガス室及び死体焼却施設Ⅱ。1943年のSSの写真



ビルケナウの焼却施設近くの人体の野積み場



ビルケナウの焼却施設近くの人体の野焼き場

■ アウシュビッツ系収容所における犠牲者数の推定

1944年1月時点でのビルケナウ収容所の女子囚人は2万7,000人であったが、1944年8月時点での囚人数は実に10万5,168人と激増している。

アウシュビッツ系強制収容所に収監された囚人は累計で約250万人に及ぶとされるが、そのうち40万5,000人に囚人番号が付与された。そのうち50%がユダヤ人であり、残りはポーランドなど他国人であった。その中で生存者は6万5千人に過ぎない。

1942年1月～1942年3月にアウシュビッツに収容された17万5千人がガス室で殺害されている。その後、1942年8月にビルケナウ絶滅収容所に大型の新式のガス室と焼却炉の建設が計画され、1943年3月末に一部が稼働可能になった。新型のガス室と焼却施設の導入により、ビルケナウでは膨大な数の囚人の殺害と焼却が行われたとされているが、その実数は依然として明確になっていない。

3つあるアウシュビッツ収容所における犠牲者数の合計は、当初600万人、その後250万人とされたが、現在、ポーランド政府は公式発表としてアウシュビッツ系収容所全体で約150万人としている。



アウシュビッツ収容所の偽計者数を刻んだモニュメント  
アウシュビッツⅠ、Ⅱ、Ⅲの強制収容所における犠牲者数は、当初600万人、次いで400万人、さらに250万人と減少しており、1995年にアウシュビッツビルケナウ博物館の入り口にある碑には、150万人と刻まれている。

とはいえ、1940年8月15日～1943年7月までの間稼働したアウシュビッツ収容所での犠牲者数は累計で最大30万人程度と推定される。またアウシュビッツ3のモノビッツ収容所は強制労働施設であって史実によれば殺害そのものはそれほど多くないので、残りの120万人前後はビルケナウの犠牲者と考えることができる。ただし、これも類推の域を出ない。

ビルケナウ収容所は絶滅工場と呼ばれているが、「絶滅」の意味は、一旦この施設に入った囚人は生きて外に出られない。すなわち囚人を絶滅するということを意味している。

そのⅢにつづく